

箭内健次先生年譜

- 明治四十三年 一月十六日 東京市小石川区指ヶ谷町一四七番地において、互の二男として出生。
- 大正 五年 四月 東京市立明化尋常小学校入学。
- 大正 十一年 四月 東京府立第六中学校（現新宿高等学校）入学。
- 昭和 三年 四月 静岡高等学校文科乙類入学。
- 昭和 六年 四月 東京帝国大学文学部国史学科入学。
- 昭和 九年 三月 卒業。
- 昭和 九年 四月 東京帝国大学大学院（旧制）入学。
- 昭和 十一年 十月 退学。
- 昭和 十一年十一月 台北帝国大学文政学部専任講師。
- 昭和 十三年 六月 同大学助教授。
- 昭和 十七年 四月 同大学南方人文研究所員兼任。
- 昭和二十一年 五月 勅令により退官。
- 昭和二十二年 二月 外務事務官 調査局第一課（外交文書室）勤務。
- 昭和二十三年 二月 文部事務官 教科書局第一編集課（後改組初等中等教育局中等教育課）勤務。
- 昭和二十五年 四月 金沢大学法文学部教授。

- 昭和二十八年 四月 九州大学文学部教授。
- 昭和三十五年 九月 スペイン・ポルトガル・イギリス・オランダへ研修出張（翌年三月迄）。
- 昭和三十八年 四月 九州文化史研究施設長（四十一年三月迄）。
- 昭和四十三年十一月 東海大学文学部教授。
- 昭和四十四年 九月 ソ連・ブルガリア・ユーゴスラヴィア等東欧諸国へ研修出張（同年十一月迄）。
- 昭和四十九年 四月 駒沢大学文学部教授。現在に至る。
- 昭和五十一年 八月 アメリカ・メキシコへ出張。
- 昭和五十九年 四月 駒沢大学大学院人文科学第二研究科委員長（六十年三月迄）。
- 昭和六十年 三月 停年退職
- 昭和六十年 四月 停年延長
- 昭和六十一年三月まで停年延長

箭内健次先生著作目録

著・編著

- | | | | |
|---------------------|--------------------|---------|----------|
| 『近世の外交』 | (新講大日本史) | 雄山閣 | 昭和16年 |
| 『西力東漸史』 | (師範大学講座 歴史教育 第一二卷) | 建文館 | 昭和16年 |
| 『西洋との接触』 | (新日本史講座) | 中央公論社 | 昭和24年 |
| 『崎陽群談』全三冊(校訂) | (九州史料叢書) | 九州史料刊行会 | 昭和30—33年 |
| 『長崎』 | (日本歴史新書) | 至文堂 | 昭和34年 |
| 『長崎県史』(編著) | 全八卷 | 長崎県 | 昭和38—61年 |
| 『長崎県の歴史』(編著) | | 文画堂 | 昭和35年 |
| 『通航一覽統輯』 | 全五卷 | 清文堂 | 昭和43—48年 |
| 『北・九州』(編著) | | 吉川弘文館 | 昭和44年 |
| 『モルガ「フィリピン諸島誌」』(訳註) | (大航海時代叢書) | 岩波書店 | 昭和48年 |
| 『外来文化と九州』 | (九州文化論集 第二)(共著) | 平凡社 | 昭和48年 |
| 『江戸の開幕』 | (図説日本の歴史 第一二卷) | 集英社 | 昭和50年 |
| 『海外交渉史の視点』2(共編) | | 日本書籍 | 昭和51年 |
| 『シーボルト「日本」の研究と解説』 | (共著) | 講談社 | 昭和52年 |

論文

初期英国東インド会社の日本通商計画

「歴史教育」第一〇巻第七号

昭和10年

基督教史の一発見

「歴史学研究」第三卷第六号

昭和10年

門人がシーボルトに提供した蘭語論文の研究

『シーボルト研究』 岩波書店

昭和13年

シーボルト作成の地図について

『シーボルト研究』 岩波書店

昭和13年

マニラの所謂パリアンについて

「台北帝国大学史学科年報」第五号

昭和13年

マニラアウディエンシア創設についての一考察

「台北帝国大学史学科年報」第六号

昭和15年

フィリピンに於けるエンコミエンダの継承について

『東亜学』第六輯 日光書院

昭和18年

トンド地区支那人の発展

「南アジア学報」第二号

昭和18年

フィリピン研究史

『南方字典』 南方協会編

昭和18年

比島支那人の地方発展について

「南方民族」第七卷第一・二号

昭和18年

初期日西交渉の諸問題——秀吉のフィリピン招撫をめぐって——

「史淵」第六一輯

昭和30年

鎖国と平戸商人団

「史淵」第六六輯

昭和30年

対外交渉史の課題

「九州史学」第二号

昭和31年

長崎貿易仕法変革の意義

「九州文化史研究所紀要」第五号

昭和31年

糸割符商人研究序説

「史淵」第七〇輯

昭和31年

ヨーロッパ人の東方進出と日本

『図説日本文化史大系』第八卷 小学館

昭和31年

近世都市長崎の形成

「史淵」第七三輯

昭和32年

イスパニアの初期中国通商

「九州史学」第九号

昭和33年

諸国との交渉

『図説日本文化史大系』第九卷 小学館

昭和33年

一六四〇年のマカオ使節に関する一資料

「史淵」第七八輯

昭和34年

トルレ・ド・トンボ文書館蔵「モンズーン文書」所収

日本関係文書目録

昭和34年

トルレ・ド・トンボ文書館蔵「モンズーン文書」所収

東洋関係文書目録

昭和35年

分国系についての一考察

「九州文化史研究所紀要」第八・九号

昭和36年

鎖国の形成と国際環境

「史淵」第八八輯

昭和37年

南蛮貿易

「歴史教育」第一〇巻第九号

昭和37年

豊臣秀吉と貿易商人

岩波講座『日本歴史』9 近世1 岩波書店

昭和38年

幕藩体制とキリスト教

日本歴史学会編『歴史と人物』吉川弘文館

昭和39年

朱印船制度創設記事の一考察

「宗教史」(体系日本史叢書)

昭和39年

日本メキシコ貿易の基調

「史淵」第九三輯

昭和39年

寛永鎖国についての一考察

「史淵」第九九輯

昭和43年

市法商法下における貨物増銀に関する一資料

「九州文化史研究所紀要」第一三号

昭和45年

オランダの植民発展と東アジア貿易の独占

日本商館の盛衰と洋学の発展

日本と西欧文化の出会い

長崎貿易と御用銅

西洋文化と年中行事

鎖国と貿易無用論

大航海時代日本をめぐる海上交通の政治史的意義について

一九三四―五年シーボルト文献の来た頃

―昭和初期シーボルト研究の回顧―

銀貿易から銅貿易へ

長崎県史 対外交渉編 (分担執筆)

編纂

大分県史料 (第三部キリシタン史料)

洋学関係研究文献要覧(一八六八―一九八二)

『中欧史』(世界各国史 7) 山川出版社

昭和46年

『日本と西洋』(東西文明の交流 6) 平凡社

昭和46年

「銅」第二号

昭和48年

『年中行事の歴史学』 弘文堂

昭和55年

「歴史と地理」第二九九号

昭和55年

「交通史研究」第一〇号

昭和58年

「シーボルトと日本文化」第二号 法政大学

昭和61年

『住友史料叢書』月報1 思文閣

昭和60年

長崎県

昭和61年

大分県

昭和37〜38年

日外アソシエーツ

昭和58年